

特集

全国天文愛好者交流会 2024 開催報告

飯塚礼子（日本天文愛好者連絡会、日食情報センター）

1. はじめに

日本天文愛好者連絡会（JAAA：Japan Amateur Astronomers Association）[1]とは、世界天文年（2009年）を機に形成された日本天文協議会において、日本国内の天文愛好者のゆるやかなネットワークの役目をはたす目的で発足した。その一つに「天文同好会サミット 2010」[2]でできた天文愛好者のつながりをさらに活用し、天文愛好者が中心となって開催する交流会をJAAAが支援するものとした。ここでは、天文同好会や天文愛好家の天文普及や観測結果等の成果発表や事例紹介など多義に渡り、1年に一度の交流会が開催される。そこで、JAAAは、その情報や個々のイベント案内、最新の天文ニュースを届ける目的のWebや天文愛好者連絡メーリングリストを立ち上げた。

2. 「アマ天大会」とは違う目的？

現在では、ネットによる情報がいち早く手元に届く。しかし、ネットが普及する前の天

文愛好家の交流、日本アマチュア天文研究発表大会（アマ天大会）があった。アマチュア天文家に日頃の研究の成果を発表する場とし「最も由緒があり権威高い全国大会」とネット上に記載があった。アマ天大会の第1回目は1957年、神奈川県川崎市で川崎天文同好会が開催した。その後全国各地持ち回りで開催し、1997年の第30回大会、神奈川県海老名市で終了した。

その後、アマ天大会のような全国で持ちまわる発表会は定期的になくなったが、様々な分野ごと、例えば惑星、彗星、変光星等の集まりは個々で行われておりアマ天大会の役割は終了したと考えられる。

とはいえ、専門分野に特化しない天文愛好者が集まって成果を自由に発表する場面が復活するのも同好会だからこそ良いのではないかとも思う。

3. 開催内容

JAAAでは、天文愛好家の交流会の場とし、

表1 全国天文愛好者交流会

全国天文愛好者交流会日程		開催場所	
JAAA2011	6/25～26	東京都堀切	東京未来大学
JAAA2012	11/23～24	鳥取県鳥取市佐治	さじアストロパーク
JAAA2013	6/29～30	宮城県仙台市	東北大学・仙台市天文台
JAAA2014	6/28～29	栃木県大田原市	ふれいあいの丘シャトー・エスポワール
JAAA2015	6/27～28	京都府京都市	京都大学
JAAA2016	9/24～25	北海道名寄市	なよろ市立天文台
JAAA2017	9/30～10/1	佐賀県佐賀市	星空学習館ほか
JAAA2018	10/27～28	香川県高松市	香川大学教育学部
JAAA2019	10/26～27	東京都堀切	東京未来大学
JAAA2022	10/8～9	福島県郡山市	郡山市民交流プラザ

2011 年からその地域の天文同好会が主催とした持ち回りの「全国天文愛好者交流会」(表 1) を支援した。概ね 2 日間の開催とし、特別講演者を招待し、高校生以下の発表者、および団体には顧問の「海部宣男先生奨励賞」現在は「渡部潤一先生奨励賞」を授与している。

4. 全国天文愛好者交流会 2024 開催

2024 年は、地域天文同好会の持ち回りでの開催を変更し、支援だった JAAA が主催する方式に変更した。その理由としては、過去の開催において主催する地域天文同好会への負担がかなりあり、存続における課題の一つとなっていたからである。

以下に開催日時、プログラム(図 1)を示す。

日 程：2024 年 6 月 1 日(土)～2 日(日)

開催場所：日立シビックセンター

マーブルホール会議室

時刻	内容
6月1日	
13:00	受付開始
13:00	開会式
13:05	発表①(特別講演者、飯塚礼子、野澤 剛) 60分
14:10	発表②(発表者、観望発表) 20分発表
14:30	休憩(フタバタムシ)移動
15:00	フタバタムシ展示(任意参加、別途フタバタムシ(観望用が必須))
15:40	会費納入開始
16:10	発表③(飯塚礼子、伊藤真希、岡村典夫) 60分
17:10	20分発表
17:10	1日終了
6月2日	
10:00	JAAA 報告会
10:30	休憩(バス)移動(観望発表)
11:00	特別講演 岩田隆浩准教授「MMX の科学目標について」(後援)
12:00	開会式 発表者奨励賞授与

図 1 プログラム

特別講演とし、「MMX の科学目標について」というタイトルで、岩田隆浩准教授(JAXA 国際宇宙探査センター火星衛星探査機(MMX)プロジェクトチーム JAXA 宇宙科学研究所 太陽系科学研究系)によるお話を伺った。岩田隆浩准教授は「はやぶさ2」に続いて MMX でも、

水や有機物の太陽系の中の動きを探る研究をされており、今回は MMX の科学目標を中心に様々な内容を織り交ぜてご講演された。



図 2 2 日目の記念撮影

今回は Zoom 参加者も受け入れ、その中には高校生のグループも見られた。

5. おわりに

開催にあたり日立シビックセンター科学館の方には多大な協力を頂き感謝申し上げます。今回は私が報告しているが、開催においては JAAA 手弁当スタッフ、橋本靖之さん、茶木恵子さん、友田哲さん、和久信一さん、昆愛さんと共に進めていったことを明記しておきたい。

文 献

- [1] 日本天文愛好者連絡会 (JAAA) Web <https://www.jaaa-astro.jp/index.html>
- [2] 天文同好会サミット 2010 https://www.nao.ac.jp/nao_topics/data/000539.html



飯塚 礼子